きた産業のTOPICS！ & お酒 STATISTICS（オサケ スタティスティックス）

ちょっと意外な、お酒の統計情報紹介

ちょっと意外な酒類の統計、あまり知られていない統計データを、ビジュアルな資料でご紹介するコーナー。当社で蓄積しているデータを不定期連載でお届けします。

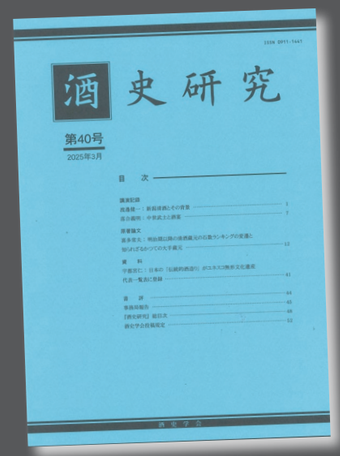
今回は「清酒出荷石数 TOP20：明治～令和の変遷」です。

2025 年 6 月に刊行された『酒史研究 第 40 号』（「酒史学会」の学会誌）に、喜多が投稿した「明治期以降の清酒蔵元の石数ランキングの変遷と知られざるかつての大手蔵元」という論文が掲載されました。明治以降の清酒大手蔵元の石数の変遷を調査し、一覧として記載しています。また、明治期には、石数 1 位の「白鹿」をはじめ 5 社以上の辰馬姓の大手蔵元があったことや、今は知る人が少ない、本邦 2 位だった若井家の「牡丹正宗」（9 ページ図 4 に写真）などについて調査しています。

ここでは、論文に掲載したランキングの一部をベースに、明治から令和の特定年について、「石数 TOP20」の変遷を資料化して、「お酒ステティスティクス」として紹介します。

（上のスライド）「銘柄ごと」のランキングのほか、「実質（オーナーごと）」のランキングも書いています。　■明治 28 年：銘柄 TOP3 は「辰馬本家・若井本家・鳴尾辰馬家」、実質 TOP3 は「辰馬本家・南辰馬家・若井本家」　■大正 14 年：銘柄 TOP3」は「辰馬本家・本嘉納・大倉恒吉」、実質 TOP3 は「小西新右衛門・辰馬本家・本嘉納」　■昭和 10 年：銘柄 TOP3」は「本嘉納・辰馬本家・嘉納合名」、実質 TOP3 は「本嘉納・大倉恒吉・小西新右衛門」

（下のスライド）戦後の清酒課税移出は、1960 年には 400 万石程度まで回復、1973 年の 981 万石がピークで、1968 ～ 1982 年の 15 年間は、800 万石以上の「黄金時代」でした。掲載している昭和 50（1975）年はピークに近い時期で、大手各社の出荷石数は、酒造技術革新もあって戦前（1935 年）と比べて一桁上がっています。



令和は 2020 年を取り上げたので松竹梅が 1 位になっていますが、ご存じの通り、現在は白鶴が 1 位です。この半世紀の 1 位の変遷は、以下のようになっています。■ 1970 年代から 2001 年までトップが月桂冠。2 位・3 位は、白雪、白鶴、日本盛、大関、松竹梅が、入れ替わりながら登場。　■ 2002 年トップ交代、1 位が白鶴。2 位・3 位は 2017 年までは月桂冠・松竹梅だったが、その後、松竹梅・月桂冠の順に。　■ 2018 年トップ交代、松竹梅 1 位、白鶴 2 位、月桂冠 3 位。■ 2022 年トップ交代、白鶴 1 位、松竹梅 2 位、月桂冠 3 位。以降、この順番で今に至る。

4 ページ記載のグラフに関係した内容ですが、今や「清酒の主流容器は紙パック」と言えます。2020 年の上位 10 社はすべて紙パック製品を販売していて、10 社の合計総出荷に占める紙パック出荷比率は 70%弱と推定されています。一方、11 位以降には、紙パックを全く販売しない会社が 5 社あります。容器形態への対応方針は、大手銘柄の特徴を決める大きな要素となっていることは指摘できます。　（text = t.kita）

明治 28 年のランキング表にある「今はない銘柄」の酒票：2 位「牡丹正宗」、3 位「東自慢」、7 位「澤亀」、8 位「山星」、9 位「志ら泉」（出典：菰樽の図案は「酒蔵の町・新川ものがたり」1991 年から。ラベル 4 点は石田信夫氏所蔵。「東自慢」のラベルは、小西新右衛門買収後の大正 4 年以降のもの）

「清酒出荷石数TOP20」：明治・大正・昭和・平成・令和の変遷
（ kitasangyo.com アーカイブ収載）「資料 A」から抽出

明治28（1895）年

	「銘柄」/酒造家	石数（石）
1	「白鹿」/辰馬たき・辰馬本家	27,204
2	「牡丹正宗」/若井本家	18,977
3	「東自慢」/鳴尾辰馬家	15,941
4	「澤之鶴」/石崎喜兵衛	13,642
5	「戎面」/日本攝酒・南辰馬家	13,562
6	「日本魂」/江井ヶ嶋酒造（明石）	12,588
7	「澤亀」/宅徳平（大阪・堺）	10,100
8	「山星」/鈴木忠右衛門（滋賀）	10,082
9	「志ら泉」/鷲尾久太郎	9,031
10	「東褒紋正宗」/辰馬與平	7,382
11	「鰹正宗」/辰馬喜十郎・南辰馬家	6,989
12	「都賀意鶴」/野田三郎	6,687
13	「菊正宗」/嘉納治郎右衛門	6,499
14	「富久娘」/花木甚右衛門	6,088
15	「泉正宗」/泉仙介	5,550
16	「民光」/森民蔵（宮城）	5,335
17	「企業」「源敷」/西宮企業	5,298
18	「大関」/長部文治郎	5,092
19	「寿海」/坂口吉蔵	4,932
20	「？」/日本醸造会社	4,851

実質（オーナーごと）のTOP3

1	「白鹿」/辰馬本家	27,204
2	「戎面」+「鰹正宗」/南辰馬家	20,551
3	「牡丹正宗」/若井本家	18,977

全国の清酒課税移出量　397.0万石

出典：『明治廿八年度全国酒造家造石高見立鑑』を基本に、『続灘酒』の明治28年情報で石数を検証しながら作成

大正14（1925）年

	「銘柄」/酒造家	石数（石）
1	「白鹿」/辰馬本家酒造	37,750
2	「菊正宗」/本嘉納商店	37,231
3	「月桂冠」/大倉恒吉	33,123
4	「日本盛」「いろ盛」/西宮酒造	31,159
5	「櫻正宗」/山邑酒造	31,026
6	「白鶴」/嘉納合名	24,923
7	「白雪」/小西新右衛門	21,929
8	「澤之鶴」/石崎株式会社	20,713
9	「忠勇」/若林合名	19,754
10	「富久娘」/花木三二郎	19,390
11	「東自慢」/本辰酒造・小西新右衛門	18,063
12	「大黒正宗」/安福又四郎	12,947
13	「大関」/長部文治郎	11,929
14	「戎面」/日本攝酒・南辰馬家	10,887
15	「泉正宗」/泉仙介	10,642
16	「日本魂」/江井ヶ嶋酒造（石数は推定）	10,000
17	「白鷹」/辰馬悦蔵・北辰馬家	9,890
18	「金杯菊正宗」/高田三郎	8,516
19	「国産一」/覚心平十郎	8,076
20	「金露」/大塚合名	7,568

実質（オーナーごと）のTOP3

1	「白雪」+「東自慢」/小西新右衛門	39,992
2	「白鹿」/辰馬本家	37,750
3	「菊正宗」/本嘉納商店	37,231

全国の清酒課税移出量　514.8万石

出典：『続灘酒』の大正14年情報と、『名古屋税務監督局管内清酒一千石以上醸造家番附』（大正12年）から作成

昭和10（1935）年

	「銘柄」/酒造家	石数（石）
1	「菊正宗」/本嘉納商店	33,344
2	「白鹿」/辰馬本家酒造	27,661
3	「白鶴」/嘉納合名	25,947
4	「日本盛」/西宮酒造	25,014
5	「月桂冠」/大倉恒吉商店	22,021
6	「千歳鶴」/日本清酒（北海道）	19,892
7	「北の誉」/野口合資（北海道）	17,596
8	「富久娘」/花木本家商店	17,407
9	「澤之鶴」/石崎株式会社	16,635
10	「白雪」/小西酒造	15,984
11	「忠勇」/若林合名	15,387
12	「千福」/三宅清兵衛商店（広島）	13,215
13	「大関」/長部文治郎商店	12,864
14	「金鵄正宗」/堀野久造	12,641
15	「國冠」/久星酒造など（埼玉など）	12,494
16	「東自慢」/本辰酒造・小西新右衛門	11,941
17	「桜正宗」/山邑酒造	10,985
18	「金杯」/本高田商店	10,329
19	「白鷹」/辰馬悦蔵商店	10,185
20	「山星」/山星鈴木（埼玉・群馬など）	9,900

実質（オーナーごと）のTOP3

1	「菊正宗」/本嘉納商店	33,344
2	「月桂冠」+共同酒造/大倉恒吉	31,251
3	「白雪」+「東自慢」/小西新右衛門	27,925

全国の清酒課税移出量　378.4万石

出典：『日本酒類醸造大鑑』（昭和11年）から抽出

きた産業アーカイブ → 資料 A：清酒出荷石数 TOP20 の「130 年の変遷」

「清酒出荷石数TOP20」：明治・大正・昭和・平成・令和の変遷
（ kitasangyo.com アーカイブ収載）「資料 B」から抽出

昭和50（1975）年

	銘柄	石数（万石）
1	月桂冠	75.16
2	白雪	44.10
3	白鶴	42.29
4	日本盛	40.29
5	大関	35.28
6	松竹梅	23.35
7	白鹿	22.55
8	黄桜	22.55
9	菊正宗	21.50
10	沢の鶴	21.35
11	富久娘	16.36
12	剣菱	14.03
13	多聞	10.18
14	爛漫（秋田）	10.17
15	北の誉（北海道）	9.18
16	千福（広島）	8.87
17	富貴	8.22
18	千歳鶴（北海道）	7.34
19	賀茂鶴（広島）	6.61
20	高清水（秋田）	6.31

全国の清酒課税移出量　970.6万石

平成7（1995）年

	銘柄	石数（万石）
1	月桂冠	47.25
2	白鶴	36.88
3	大関	36.48
4	松竹梅	30.67
5	日本盛	28.06
6	黄桜	22.21
7	菊正宗	22.06
8	白雪	20.96
9	白鹿	14.77
10	世界鷹G（埼玉）	13.95
11	剣菱	11.02
12	沢の鶴（石数は推定）	11.02
13	富久娘	9.03
14	清洲桜（愛知）	7.40
15	高清水（秋田）	6.83
16	爛漫（秋田）	6.05
17	多聞	5.86
18	千福（広島）	5.80
19	賀茂鶴（広島）	5.56
20	朝日山（新潟）	5.25

全国の清酒課税移出量　727.8万石

令和2（2020）年 ★
（「石数に輸出を含む」）

	銘柄	石数（万石）
1	松竹梅	26.57
2	白鶴	26.02
3	月桂冠	20.12
4	世界鷹G（埼玉）	14.39
5	大関	8.85
6	黄桜	8.27
7	菊正宗	7.33
8	日本盛	6.74
9	オエノン（本社・東京）	6.04
10	清洲桜（愛知）	4.23
11	白鹿	3.37
12	朝日山（新潟）	2.67
13	菊水（新潟）	2.64
14	獺祭（山口）	2.56
15	キング醸造・播州錦（兵庫）	2.43
16	沢の鶴（石数は推定）	2.35
17	高清水（秋田）	2.03
18	剣菱	1.86
19	白河銘醸・谷乃越（福島）	1.37
20	一ノ蔵（宮城）	1.06

全国の清酒課税移出量　232.0万石

★★ 輸出分含む清酒総生産　243.2万石

昭和・平成・令和の出典：日刊経済通信社が過去に出版された業界誌「酒類食品統計月報」から抽出
★　日刊経済通信社の2020年ランキングリストにはないが、2020年は「八海山」（新潟）が2.7万石程度、「北関酒造」（栃木）が2万石程度と推定、この2社はTOP20圏内だったと考える。
★★「輸出分を含む清酒総生産」 戦後で輸出比率が1%を超えだしたのは2003年。それ以前は1%未満なので影響軽微と考え、データを作っていない。

きた産業アーカイブ → 資料 B：清酒出荷石数 TOP20 の「55 年の変遷」